
第 19 回大学職員セミナー（ . . . ）

激動の時代に輝く大学を創る

職員の役割を問う

主 催：財団法人 大学セミナーハウス

場 所：八王子セミナーハウス（東京都八王子市下柚木 1987-1）

趣 旨

2008 年度は、昨年に引き続き、大学全入時代および団塊世代の定年を迎える年であります。そこからは大学の定員割れ・倒産、学生の質の低下、生涯学習の拡大を通して、大学のありようが問われています。昨年の教育再生会議の提言や中教審答申からは、「教育力」「学士力」で語られる大学の教育のあるべき姿が大きく問われている年でもあります。これまでも、少子高齢化、国際化、国立大学法人化、規制緩和等の波にもまれ、大学の存続をかけた改革路線を走り続けている大学は、更に一層の厳しい対応を迫られています。

このような激動の時代に個性ある大学を創るためには、今日の危機を肌身で感じている職員の果たすべき役割と責任が大きくなってきていると思います。我々職員は今何をなすべきかを。昨年に続き、2008 年度大学職員セミナーは、大学の抱えている課題と職員の役割を正面から問いたいと思います。国公立大学職員が一堂に会する研修の場はこのセミナーハウスの職員研修しかありません。国公立大学職員が、ともに集い、職員の役割を考える唯一の「場」です。その「場」を活かして、「あらためて総合的的学生支援体制のあり方と職員の役割を問う」「FDとSD、教員と職員の連携を通して、職員の役割を問う」「地域協力と国際化戦略、それぞれの大学における現状を通して、職員の役割を問う」の3つのテーマの検討を通して、「職員の役割」を、3人の講師と4人の企画委員と参加者全員で考えていきたいと思っています。

これまでの単発の研修ではなく、このような年間3回通しの研修は、参加者に将来を見据えたトータルマネジメントの力量を涵養するとともに、国公立大学職員研修参加者の人的ネットワーク構築という大きな財産を生み出すことでしょう。このことは2007年度の研修で実証済みです。昨年の参加者に聞いてみて下さい。あわせて、「特別講演」として、日本の高等教育のありようについて、文部科学省の責任ある立場の方々から聞く機会を作ることによって、参加者に新たな視点と情報を提供します。（なお、1回のみ参加も可能です）

（大学職員セミナー企画委員長 程島俊介）

開催日とテーマ

[第 回] 平成 20 年 7 月 11 日(金)～12 日(土)

「あらためて総合的的学生支援体制のあり方と職員の役割を問う」

課題提議：夏目達也先生（名古屋大学高等教育センター）

特別講演：村田善則先生（文部科学省高等教育局学生支援課長）

[第 回] 平成 20 年 9 月 19 日(金)～20 日(土)

「FDとSD、教員と職員の連携を通して、職員の役割を問う」

課題提議：山本眞一先生（広島大学高等教育研究開発センター）

[第 回] 平成 20 年 11 月 14 日(金)～15 日(土)

「地域協力と国際化戦略、それぞれの大学における現状を通して、職員の役割を問う」

課題提議：村田陽一先生（立命館アジア太平洋大学）

研修目的

- (1) 大学の抱えている課題の検討を通して、職員の役割を考える
- (2) 課題解決能力とプレゼンテーション力を涵養
- (3) ヒューマンネットワークの構築
- (4) 大学を取り巻く環境の最新情報を得る

ご参加にあたっての留意事項

- (1) テーマごとにレポートを事前に提出
- (2) 「課題提議」は毎回冒頭に夏目達也先生、山本眞一先生、村田陽一先生が行います。
- (3) 「課題発表」は事前レポートのうちから各グループ2名の方に発表をお願い致します。
- (4) 「グループディスカッション」は同一テーマの下、事前レポートを中心にを行います。
- (5) 「全体会」はグループディスカッションの報告会とします。
- (6) 「特別講演」は、文部科学省の部局の責任者をお願い致します。

タイムスケジュール(予定)

[第 回]

| 1日目 | 13:00 | オリエンテーション・参加者紹介 | 2日目 | 9:00 | 全体会 |
|-----|-------|---------------------|-----|-------|-------------|
| | | ([第 回]・[第 回]は前回の検証) | | 13:00 | 特別講演 |
| | 14:30 | 講演(今回テーマの関連) | | 14:30 | インフォメーション |
| | 16:00 | 課題発表(発表者各15分) | | | ([第 回]は修了式) |
| | 19:00 | グループディスカッション | | | |
| | 21:00 | 懇親会 | | | |

前回参加者の声(一部抜粋)

3回それぞれのテーマが非常に大きく設定されており、毎回不安にさらされましたが、熱い仲間との話し合いや、企画委員の先生の助言を受け、不安が取り除かれ、宝物のような知識を得ることができました。これからは、私個人が得た知識・経験(点)を広げていくことにより、強い事務組織を作り上げていく上での一助になれればと思っております。(山口大学 脊戸洋次)

研修後に職員間でネットワークが構築され研修が終わっても繋がりは途絶えていない。研修期間は終わっても終わらない研修、それ程皆の心に残った研修だったのだろうと思う。この人脈を今後も大切にしていきたい、更に自己研鑽に励みたいと思う。(国際教養大学 小林和世)

回を重ねるごとに研修者同士の連帯感が増していくのを感じました。初回は緊張感、2回目は親近感、最後は親密感が醸成されるこの3回という設定は、絶妙なバランス構成だと思います。(中央大学 胡麻本 太)

企画委員

| | | |
|-------|-------------------------|------|
| <委員長> | (社)学術・文化・産業ネットワーク多摩常務理事 | 程島俊介 |
| <委員> | 桜美林大学大学院教授 | 高橋真義 |
| <委員> | 中央大学総合企画本部担当副部長 | 横田利久 |
| <委員> | 首都大学東京管理部教務課長 | 加藤洋子 |

募集要項

- 募集対象：これから大学を担う若手・中堅または熱意ある職員(原則3回参加できる方)
- 募集人員：50名
- 参加費：69,000円(全3回分)
- 申込方法：ホームページ掲載のお申込みフォームに必要事項をご記入の上、お申込み下さい。折り返しご案内をメールでお送り致します。連絡の無い場合は電話でご確認下さい。
- その他：当ハウスは一般の宿泊施設としてもご利用頂いております。セミナーの前日またセミナー終了後、宿泊を希望される方はご連絡下さい。

交通

東京駅より約1時間半、羽田空港より約2時間。詳しい地図はホームページの交通案内をご覧ください。

八王子セミナーハウス事業推進部企画広報担当 / TEL:042-676-8532(直通) FAX:042-676-1220
E-mail:kikaku-koho@seminarhouse.or.jp / URL: http://www.seminarhouse.or.jp

第19回大学職員セミナー

<3回シリーズ> 激動の時代に輝く大学を創る 職員の役割を問う

<第 回> FDとSD、教員と職員の連携を通して、 職員の役割を問う

期 日:平成20年9月19日(金)~20日(土)

場 所:八王子セミナーハウス(東京都八王子市下柚木1987-1)

主 催:財団法人 大学セミナーハウス

協 賛:社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩

趣 旨

2008年度は、昨年に引き続き、大学全入時代および団塊世代の定年を迎える年であります。そこからは大学の定員割れ・倒産、学生の質の低下、生涯学習の拡大を通して、大学のありようが問われています。昨年の教育再生会議の提言や中教審答申からは、「教育力」「学士力」で語られる大学の教育のあるべき姿が大きく問われている年でもあります。これまでも、少子高齢化、国際化、国立大学法人化、規制緩和等の波にもまれ、大学の存続をかけた改革路線を走り続けている大学は、更に一層の厳しい対応を迫られています。

このような激動の時代に個性ある大学を創るために、今日の危機を肌身で感じている職員が果たすべき役割と責任は大きくなってきていると思います。我々職員は今何をなすべきかを、昨年に続き、大学職員セミナーは、大学の抱えている課題と職員の役割を正面から問いたいと思います。国公立大学の職員が一堂に会する研修の「場」はこのセミナーハウスでの職員セミナーしかありません。大学の職員が、ともに集い、ともに自らの役割を考える唯一の「場」です。そして、その「場」を活かし、「あらためて総合的支援体制のあり方と職員の役割を問う」、「FDとSD、教員と職員の連携を通して、職員の役割を問う」、「地域協力と国際化戦略、それぞれの大学における現状を通して、職員の役割を問う」という3つのテーマで検討を行ないます。それぞれの講師とともに参加者全員で「職員の役割」を、考えていきます。参加者には将来を見据えた、トータルマネジメントの力量涵養とともに人的ネットワークという大きな財産が生み出されます。

今回の第 回は、「FDとSD、教員と職員の連携を通して、職員の役割を問う」をテーマに、講師として山本眞一先生を、2日目の特別講演に文科省の小松人事課長をお招きしております。楽しみにしてください。なお、連続して参加できない方々のためには、1泊のみの参加や講演会のみ参加も受け付けておりますので、ぜひ事務局までご相談下さい。

(大学職員セミナー企画委員長 程島俊介)

講師予定

広島大学高等教育研究開発センター長・教授 山本眞一

文部科学省人事課長 小松親次郎

研修のスケジュール

1日目

13:00 開会

13:15 オリエンテーション、第1回の検証

14:00 講演:山本眞一

「FDとSD、教員と職員の連携を通して、職員の役割を問う」(仮題)

15:30 課題発表

19:00 グループディスカッション1

2日目

9:00

グループディスカッション2

全体会

13:30

特別講演:小松親次郎

15:00

閉会

研修目的

- (1)大学の抱えている課題の検討を通して、職員の役割を考える
- (2)課題解決能力とプレゼンテーション力を涵養
- (3)ヒューマンネットワークの構築
- (4)大学を取り巻く環境の最新情報を得る

ご参加にあたっての留意事項

参加者全員にテーマ「FD と SD、教員と職員の連携を通して、職員の役割を問う」に関するレポート(A4・1枚程度)を事前に提出いただきます。自分の大学の事例とご自身の考えを述べていただいて結構です。「課題発表」は、事前レポートのうちから数名の方をお願い致します。「グループディスカッション」は同一テーマの下に、事前レポートを中心に行います。「全体会」は、グループディスカッションの報告会とします。

参加者の声(一部抜粋)

3回それぞれのテーマが非常に大きく設定されており、毎回不安にさらされましたが、熱い仲間との話し合いや、企画委員の先生の助言などを受け、不安が取り除かれ、宝物のような知識を得ることができました。これからは、私個人が得た知識・経験(点)を広げていくことにより、強い事務組織を作り上げていく上での一助になればと思っています。(山口大学・脊戸洋次)

研修後に職員間でネットワークが構築され研修が終わっても繋がりは途絶えていない。研修期間は終わっても終わらない研修、それ程皆の心に残った研修だったのだらうと思う。この人脈を今後も大切にしていき、更に自己研鑽に励みたいと思う。(国際教養大学・小林和世)

回を重ねるごとに研修者同士の連帯感が増していくのを感じました。初回は緊張感、2回目は親近感、最後は親密感が醸成されるこの3回という設定は、絶妙なバランス構成だと思います。(中央大学・胡麻本 太)

企画委員

| | | |
|-------|-------------------------|------|
| <委員長> | (社)学術・文化・産業ネットワーク多摩常務理事 | 程島俊介 |
| <委員> | 桜美林大学大学院教授 | 高橋真義 |
| <委員> | 中央大学総合企画本部担当部長 | 横田利久 |
| <委員> | 首都大学東京管理部教務課長 | 加藤洋子 |

募集要項

募集対象: これから大学を担う若手・中堅、また熱意ある職員

募集人員: 50名

参加費: 25,000円(1回分)

申込締切: 9月5日(金)

申込方法: ホームページ掲載のお申込みフォームに必要事項をご記入の上、お申込み下さい。

折り返しご案内をメールでお送り致します。連絡の無い場合は電話でご確認下さい。

その他: 当ハウスは一般の宿泊施設としてもご利用頂いております。

セミナーの前日またセミナー終了後、宿泊を希望される方はご連絡下さい。

交通

東京駅より約1時間半、羽田空港より約2時間。詳しい地図はホームページの 交通案内 をご覧下さい。

八王子セミナーハウス事業推進部企画広報担当 / TEL:042-676-8532(直通) FAX:042-676-1220
E-mail:kikaku-koho@seminarhouse.or.jp / URL: <http://www.seminarhouse.or.jp>

第19回大学職員セミナー

<3回シリーズ> 激動の時代に輝く大学を創る 職員の役割を問う

<第 回> 地域協力と国際化戦略、それぞれの大学における現状を通して、職員の役割を問う

期 日:平成20年11月14日(金)~15日(土)

場 所:八王子セミナーハウス(東京都八王子市下柚木 1987-1)

主 催:財団法人 大学セミナーハウス

協 賛:社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩

2008年度は、昨年に引き続き、大学全入時代および団塊世代の定年を迎える年であります。そこからは大学のユニバーサル化はもとより、定員割れ・倒産、学生の質の低下、学生の多様化等を通して、大学のありようが問われています。昨年の教育再生会議の提言や中教審答申からは、「教育力」「学士力」で語られる大学の教育のあるべき姿が大きく問われている年でもあります。これまでも、少子高齢化、国際化、国立大学法人化、規制緩和等の波にもまれ、大学の存続をかけた改革路線を走り続けている大学は、更に一層の厳しい対応を迫られています。

このような激動の時代に個性ある大学を創るために、今日の危機を肌身で感じている職員が果たすべき役割と責任は大きくなってきていると思います。我々職員は今何をなすべきかを。昨年に続き、大学職員セミナーは、大学の抱えている課題と職員の役割を正面から問いたいと思います。国公立大学の職員が一堂に会する研修の「場」はこのセミナーハウスでの職員セミナーしかありません。大学の職員が、ともに集い、ともに自らの役割を考える唯一の「場」です。そして、その「場」を活かし、「あらためて総合的・学生支援体制のあり方と職員の役割を問う」、「FDとSD、教員と職員の連携を通して、職員の役割を問う」、「地域協力と国際化戦略、それぞれの大学における現状を通して、職員の役割を問う」という3つのテーマで検討を行います。それぞれの講師とともに参加者全員で「職員の役割」を、考えていきます。参加者には将来を見据えた、トータルマネジメントの力量涵養とともに人的ネットワークという大きな財産が生み出されます。

今回の第 回は、「地域協力と国際化戦略、それぞれの大学における現状を通して、職員の役割を問う」をテーマに、講師として村田陽一氏を、2日目の特別講演に文科省の徳永保氏をお招きしております。楽しみにしてください。なお、連続して参加できない方々のためには、1泊のみの参加や講演会のみ参加も受け付けておりますので、ぜひ事務局までご相談下さい。

(大学職員セミナー企画委員長 程島俊介)

基調講演

立命館アジア太平洋大学スチューデントサポートセンター課長 村田 陽一氏

特別講演

文部科学省高等教育局長 徳永 保氏

研修のスケジュール

| 第1日 11月14日(金) | 第2日 11月15日(土) |
|---------------------|--------------------|
| 13:00 開会 | 9:00 グループディスカッション2 |
| 13:10 第2回の検証 | 10:30 全体会 |
| 14:10 基調講演 | 13:00 特別講演 |
| 15:30 課題発表 | 15:00 修了式・閉会 |
| 19:00 グループディスカッション1 | |

研修目的

- (1)大学の抱えている課題の検討を通して、職員の役割を考える
- (2)課題解決能力とプレゼンテーション力を涵養
- (3)ヒューマンネットワークの構築
- (4)大学を取り巻く環境の最新情報を得る

ご参加にあたっての留意事項

参加者全員にテーマ「地域協力と国際化戦略、それぞれの大学における現状を通して、職員の役割を問う」に関するレポート(A4・1枚程度)を事前に提出いただきます。自分の大学の事例とご自身の考えを述べていただいて結構です。

「課題発表」は、事前レポートのうちから数名の方をお願い致します。

「グループディスカッション」は同一テーマの下に、事前レポートを中心に行います。

「全体会」は、グループディスカッションの報告と討論を行います。

参加者の声(一部抜粋)

3回それぞれのテーマが非常に大きく設定されており、毎回不安にさらされましたが、熱い仲間との話し合いや、企画委員の先生の助言などを受け、不安が取り除かれ、宝物のような知識を得ることができました。これからは、私個人が得た知識・経験(点)を広げていくことにより、強い事務組織を作り上げていく上での一助になればと思っております。

(山口大学・脊戸洋次)

研修後に職員間でネットワークが構築され研修が終わっても繋がりは途絶えていない。研修期間は終わっても終わらない研修、それ程皆の心に残った研修だったのだらうと思う。この人脈を今後も大切にしていき、更に自己研鑽に励みたいと思う。(国際教養大学・小林和世)

回を重ねるごとに研修者同士の連帯感が増していくのを感じました。初回は緊張感、2回目は親近感、最後は親密感が醸成されるこの3回という設定は、絶妙なバランス構成だと思います。(中央大学・胡麻本 太)

企画委員

| | | |
|-------|-------------------------|------|
| <委員長> | (社)学術・文化・産業ネットワーク多摩常務理事 | 程島俊介 |
| <委員> | 中央大学総合企画本部担当部長 | 横田利久 |
| <委員> | 首都大学東京管理部教務課長 | 加藤洋子 |

募集要項

募集対象: これから大学を担う若手・中堅、また熱意ある職員

募集人員: 50名

参加費: 25,000円(第1回のみ参加)

申込締切: 11月6日(木)

申込方法: ホームページ掲載のお申込みフォームに必要事項をご記入の上、お申込み下さい。
折り返しご案内をメールでお送り致します。連絡の無い場合は電話でご確認下さい。

その他: セミナーの前日またセミナー終了後、宿泊を希望される方はご連絡下さい。

交通

東京駅より約1時間半、羽田空港より約2時間。詳しい地図はホームページの「交通案内」をご覧ください。

八王子セミナーハウス企画広報課 / TEL:042-676-8532(直通) FAX:042-676-1220
E-mail:kikaku-koho@seminarhouse.or.jp / URL: <http://www.seminarhouse.or.jp>